

# 大牟田市における地域共生社会を目指した地域づくり



## 大牟田市保健福祉部 福祉課総合相談担当

大牟田市公式キャラクター「ジャーク坊」  
(presented by 株式会社レベルファイブ)  
市制施行100周年を記念し、平成29年3月1  
日に大牟田市公式キャラクター「ジャーク坊」が誕  
生しました。

# 福岡県大牟田市の概況



かつては炭鉱のまち  
(平成9年三池炭鉱閉山)  
今、大牟田は  
人にやさしいまちへ



●大牟田市の人口  
約210,000人  
(1960年)

⇒

110,749人  
(2021年9月)

●高齢者数  
高齢化率

41,262人  
37.2%

●世帯数  
高齢者のいる世帯

56,118戸  
30,414戸  
(54.2%)

高齢者単身世帯数

14,927戸  
(26.6%)

●面積

81.45km<sup>2</sup>

●公立小学校区数

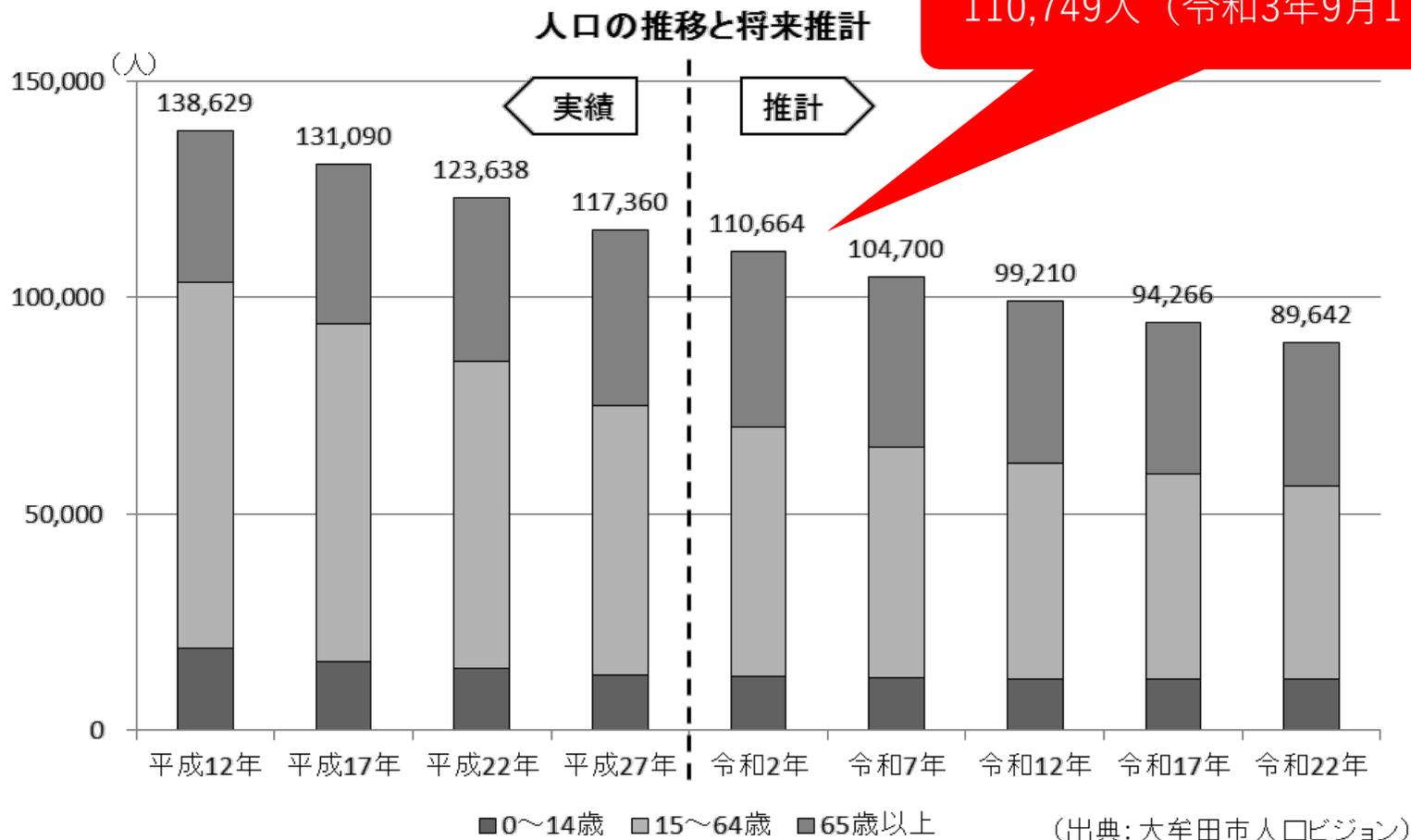
19小学校区

●公立中学校区数

8中学校区

宮原坑(世界文化遺産)

## ■背景：人口減少・少子高齢化



高齢化の進展（特に後期高齢者の増加）に伴い、地域包括支援センターの相談件数や対応件数が増加し、負担感も増加

---

# 消費者安全と福祉の連携

# 大牟田市権利擁護連絡会



# 要 綱

H19～28



H29～現在

## 大牟田市高齢者・障害者権利擁護連絡会

(設置)

- 高齢者や障害者への虐待防止
  - 成年後見制度の適切な運用や普及啓発
  - 市民後見人の養成など
- を図る目的として設置

(所掌事務)

- 高齢者及び障害者への虐待防止に関する協議
- 成年後見制度の適切な運営及び普及啓発に関する協議
- 市民後見人の養成や仕組みに関する協議
- その他連絡会の設置目的を達成するために必要な事項に関する事

## 大牟田市権利擁護連絡会

(設置)

- 児童・障害者・高齢者への虐待防止
- 成年後見制度を含む法的支援の適切な運用や普及啓発
- 多様な世代に関する生活支援の普及啓発を図る目的として設置

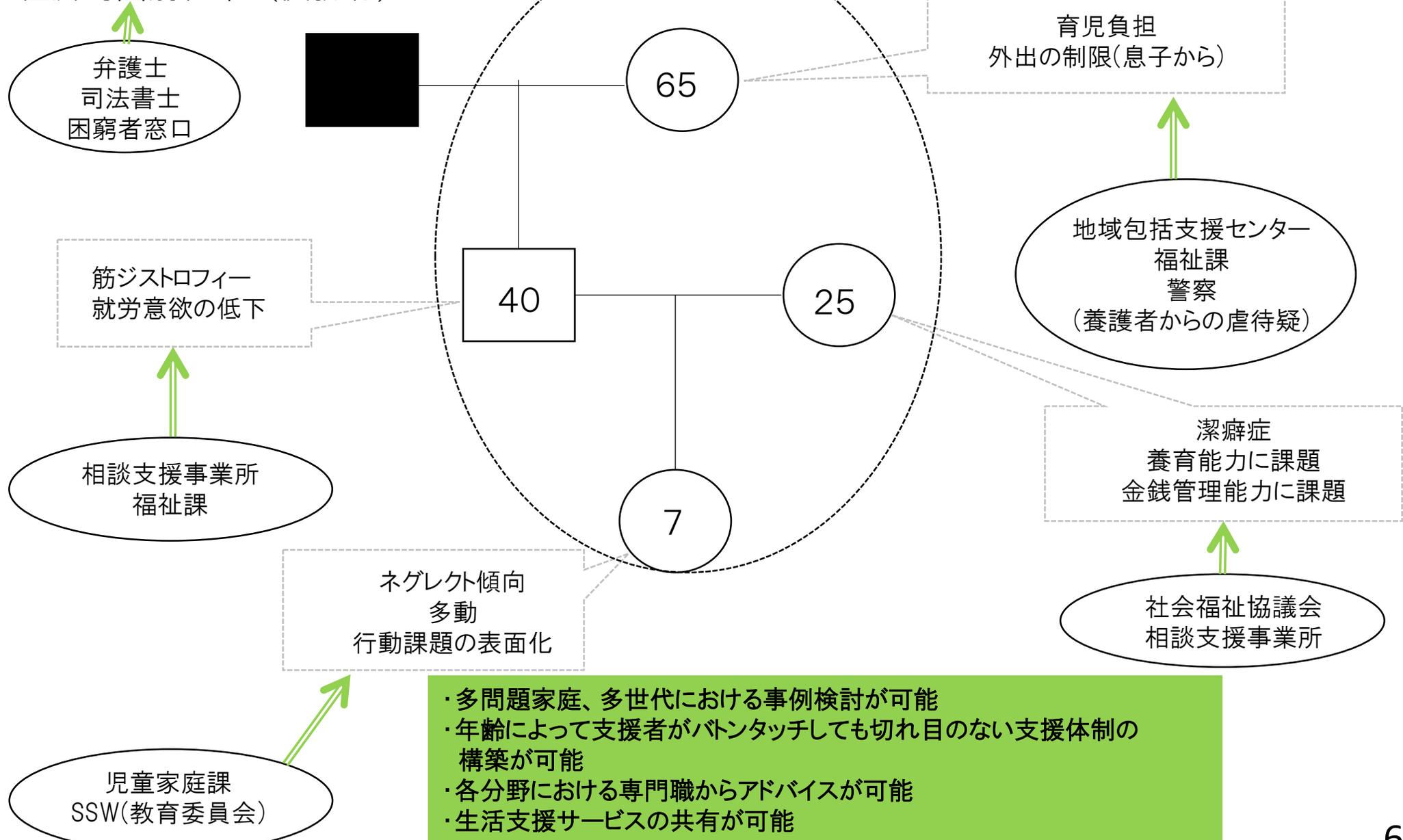
(所掌事務)

- 児童・障害者・高齢者への虐待防止に関する協議
- 成年後見制度を含む法的支援の適切な運営及び普及啓発に関する協議
- 消費者被害防止に関する協議※
- シームレスな支援ができるネットワーク構築に関する協議
- その他連絡会の設置目的を達成するために必要な事項に関する事

※消費者被害防止に関する協議を追加することで、消費者安全確保地域協議会（見守りネットワーク）機能を兼ねることができる

# 権利擁護連絡会ネットワーク活用例

経済的困窮世帯（債務有）



育児負担  
外出の制限(息子から)

弁護士  
司法書士  
困窮者窓口

地域包括支援センター  
福祉課  
警察  
(養護者からの虐待疑)

筋ジストロフィー  
就労意欲の低下

潔癖症  
養育能力に課題  
金銭管理能力に課題

相談支援事業所  
福祉課

ネグレクト傾向  
多動  
行動課題の表面化

社会福祉協議会  
相談支援事業所

児童家庭課  
SSW(教育委員会)

- ・多問題家庭、多世代における事例検討が可能
- ・年齢によって支援者がバトンタッチしても切れ目のない支援体制の構築が可能
- ・各分野における専門職からアドバイスが可能
- ・生活支援サービスの共有が可能

---

地域認知症ケアコミュニティ推進事業

ほっとあんしんネットワーク模擬訓練

# • ほっとあんしんネットワーク 模擬訓練

情報伝達

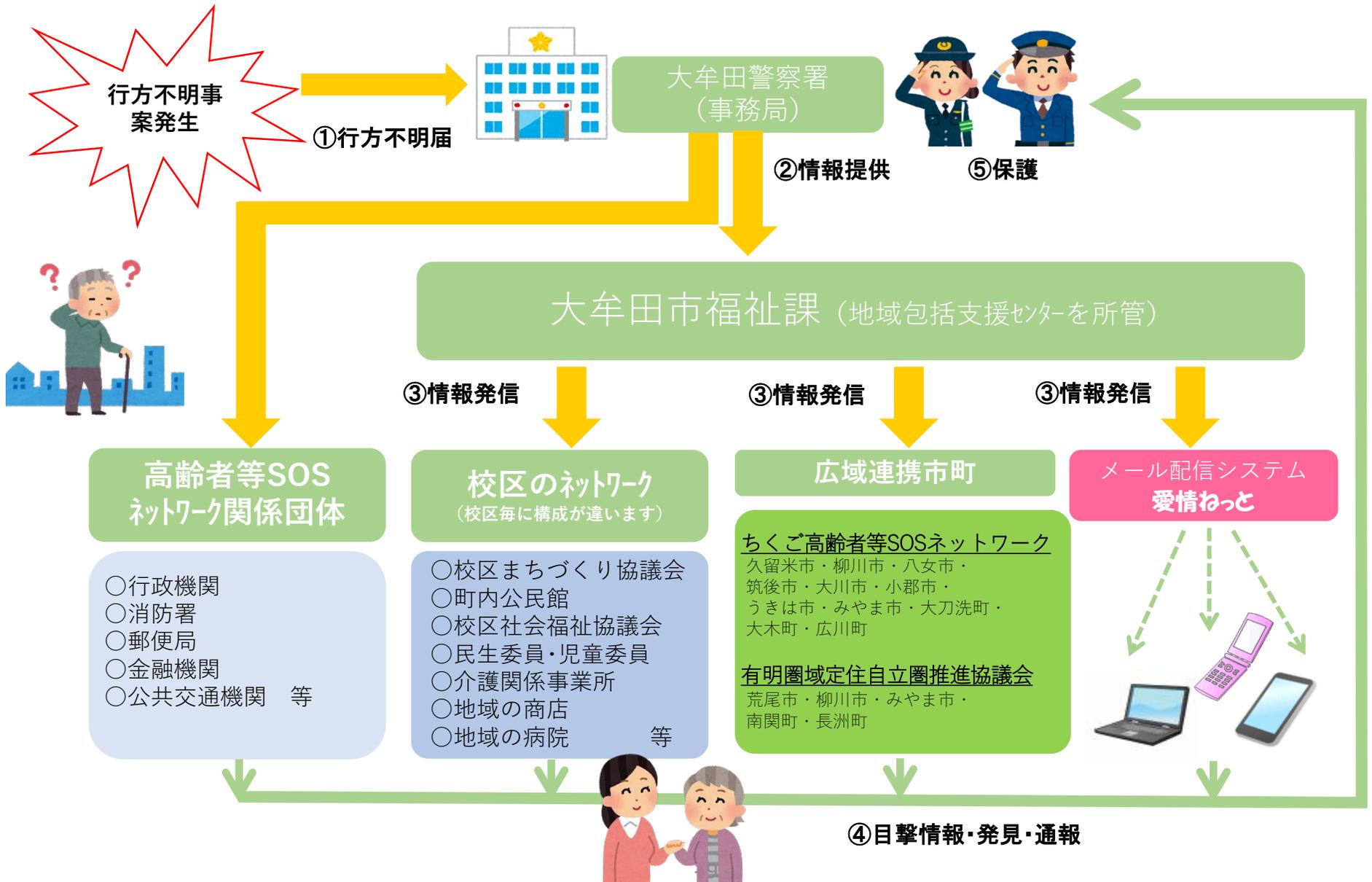
搜索

発見・保護



9月21日世界アルツハイマーデー

# 大牟田市ほっとあんしんネットワーク



# ほっとあんしんネットワーク模擬訓練当日の流れ

## 1. 警察署より情報発信

行方不明者の家族から大牟田警察署生活安全課に捜索願が出されたと想定し、SOSネットワークを通じ関係団体に行方不明情報を発信。



## 2. 市役所より情報発信

警察署からの連絡を受け、福祉課から介護事業所、医療機関へ情報を発信。愛情ねっと登録者へメールでの情報配信。



## 3. 校区拠点より情報伝達

校区ごとに作成した情報伝達網を活用し、情報伝達を行う。できるだけ「早く・正確に・末端まで」が目標。



## 4. 各校区にて捜索・声かけ訓練

各校区の体制に応じ、捜索および声かけ訓練を行う。校区によって、捜索に重点を置いたり、声かけ訓練に重点を置いたり、スタイルはさまざま。



## 5. 訓練本部報告会／校区反省会

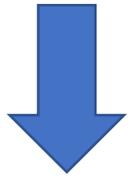
模擬訓練が終わったあと、本部では訓練結果の速報を行う。各校区でも反省会を行い、「情報伝達は速く・正確にできたか」「声かけは上手にできたか」など、次年度に向けて検証を行う。



# 模擬訓練の成立ち

2003年年10月 第1回はやめ南人情ネットワーク日曜茶話会を開催

「自分たちの町からは絶対に孤独死を出さない！」と一人暮らし高齢者の見守り、声かけ運動などの地域活動を行っていた駿馬南校区で、高齢者の行方不明による死亡事故が発生（何とかできなかったのかとの思い）。



**どげんかせんといかん!**

地域住民の意識の高まり

2004年10月 駿馬南校区で初の模擬訓練を実施

電話連絡では正確に情報が伝わらない（伝達手段の検討→実効性）  
行方不明役に誰も声をかけられなかった（日ごろからの言葉かけ→啓発）

2005年,2006年 引き続き駿馬南校区で模擬訓練を実施

2006年の訓練中に、本当に「朝から家を出たまま帰らない子ども」の捜索に切り替え → ネットワークは認知症の人のためだけではない

その後も、実際にネットワークを使って大牟田の祖父母の家に遊びに来ていた孫や知的障害児の行方不明捜索が行われ、このネットワークを子ども・障害者等の他領域に広げる必要性が認識されていった。

# 模擬訓練実施結果（最近5年間）

	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
訓練参加者合計（人）	2,945	2,603	2,617	181	437
外出役数（人）	82	102	87	1	14
外出役への声かけ （人）	1,087	1,676	1,551	75	161
模擬訓練参加校区数	19	20	19	4	6

※小学校再編により、30年度から市内19校区になりました

## 参加主体

○地域住民○校区まちづくり協議会○民生委員・児童委員○社会福祉協議会○PTA○小  
中・高校生○大学・専門学生○市民団体○公共交通機関○金融機関○消防団○福祉・医  
療事業所○警察機関○消防本部○サービス事業者協議会○行政（福祉課）

# 模擬訓練を継続したことの結果

大牟田警察署調べ

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
高齢者の保護数	121	169	138	141	139	135	155	146	134
高齢行方不明者の届出数	24	24	24	22	27	34	20	25	31
SOSネットワーク利用数	20	24	23	14	18	11	9	14	9
模擬訓練当日平均情報伝達時間(分)	50	45	33	34	30	25	20	23	38

平成26年以降の高齢行方不明者の届出数とSOSネットワーク利用数の差は、  
ネットワークに情報を流す前に発見に至ったもの



効果① 地域のみなさんの言葉かけにより、情報発信前発見件数が増加

効果② 情報伝達時間の短縮→いち早く捜索が可能になった

# 認知症支援に力をいれていたけど・・・

- ・ 認知症の人を支えようと毎年模擬訓練に主体的に関わっていた住民
- ・ 自分が認知症になってからは、地域行事に参加しなくなった。

なぜ？

- ・ それ知った周りの住民は積極的に気遣いを行う。
- ・ 本人はそれが辛く、外出をしなくなった。

「支える側、支えられる側という意識が当事者（認知症の人）にとって

“生きづらさ”を生んでいるという部分もあるのではないか」

2020年「安心して暮らすためのセーフティネットを維持・運用しながら当事者の個別性を理解しよう」

2019年「振り返ろう」「考えよう」「前に進もう」

2017年「認知症であろうとなかろうと、皆で繋がって前に進もう！」

2015年「認知症でも安心して外出できるまちづくり」

2004年「“徘徊”がノーではなく、安心して“徘徊”できるまちをつくらう！」

差別のない関り  
2004年～



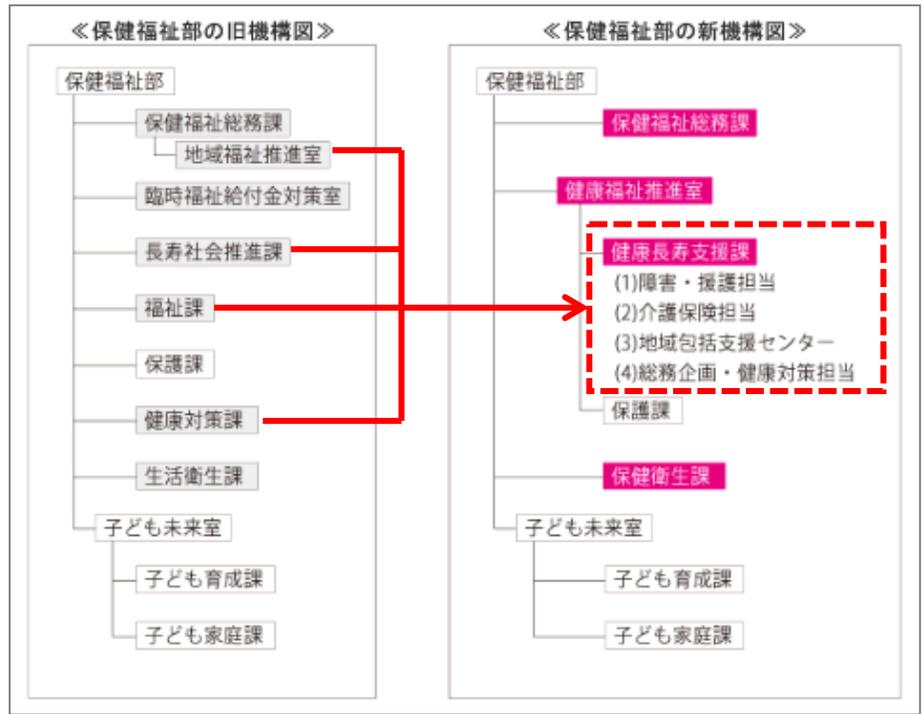
認知症への支援のあり方  
2015年～



当事者個別支援  
2020年

学び直し・気付き直し  
(サポーター養成講座見直し等)

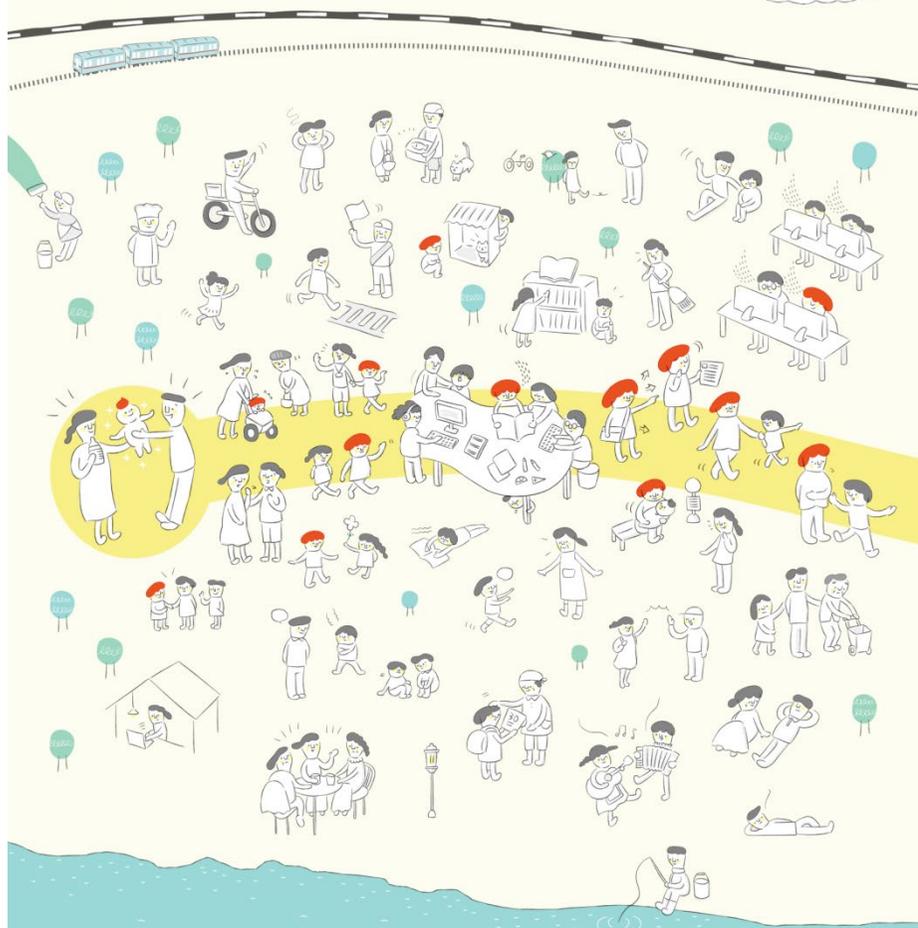
# ■経過：地域福祉・地域包括ケアシステムから地域共生社会へブラッシュアップ



誰もが住み慣れた地域で支えあいながら、安心して暮らし続けることができる地域共生社会の実現を市の目標に設定

地域共生社会の実現を目指すために、包括的支援体制を構築するためには、庁内の組織的統合が必要  
 【介護保険、高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉、生活困窮者支援、健康増進などの部署を統合】  
 (平成29年8月に機構改革実施)

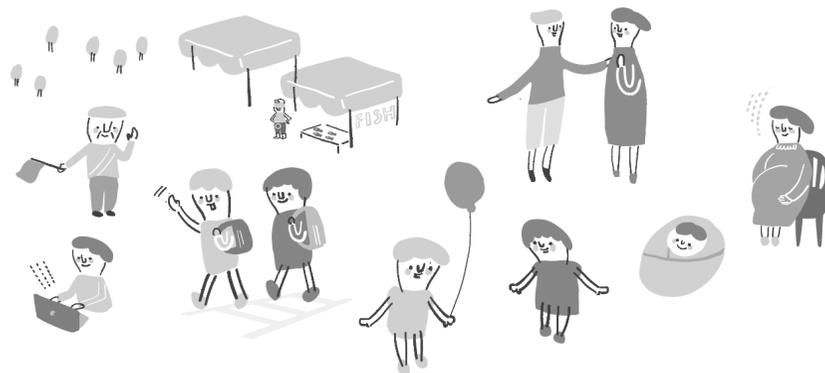
# 大牟田市健康福祉総合計画



令和3年2月  
大牟田市

## 基本理念

誰もが安心して健やかに  
暮らしながら、持てる力  
を生かし、社会的に孤立  
することなく参加できる  
社会を実現する



# 計画の位置づけ

大牟田市まちづくり総合プラン



## 大牟田市健康福祉総合計画

- ・ 地域福祉計画
- ・ 自殺対策計画
- ・ 障害者計画
- ・ 障害福祉計画・障害児福祉計画
- ・ 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- ・ 健康増進計画
- ・ 食育推進計画



地域福祉実践計画（社協）

### 【その他関連する計画等】

- ・ 人権教育・啓発基本計画
- ・ 男女共同参画プラン
- ・ 保健事業実施計画・特定健康診査等実施計画
- ・ スポーツ振興計画
- ・ 都市計画マスタープラン
- ・ 住生活基本計画
- ・ 地域防災計画
- ・ 地域コミュニティ基本指針

など



子ども・子育て支援事業計画

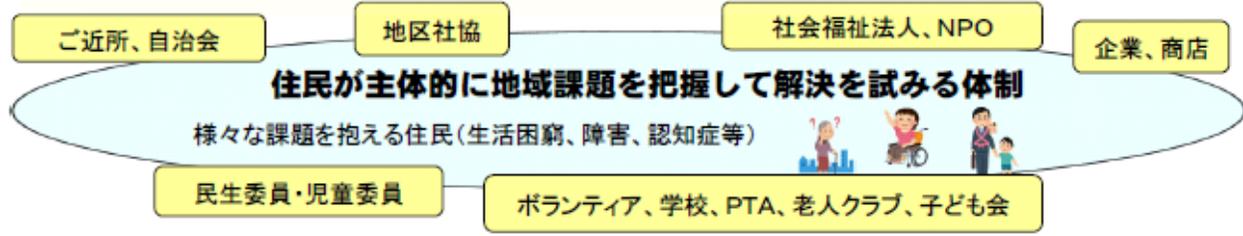
## 包括的支援体制構築事業の内容

---

# ■地域力強化推進事業(大牟田市)

## (1) 地域力強化推進事業(補助率3/4)

○ 住民の身近な圏域において、住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みることができる体制を構築することを支援する。



**住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援**

 **[1]** 地域福祉を推進するために必要な環境の整備(他人事を「我が事」に変えていくような働きかけ)

 **[2]** 地域の課題を包括的に受け止める場 (※)

※ 地域住民ボランティア、地区社協、市区町村社協の地区担当、地域包括支援センター、相談支援事業所、地域子育て支援拠点、利用者支援事業、社会福祉法人、NPO法人等

○ 市町村レベルにおいて「地域共生社会」の実現に向けた地域づくりに係る普及啓発の取組や、都道府県による市町村における地域づくりへの支援を実施する。

### 【1】

- 新たな地域資源を作りだす役割として「地域共創サポーター」を各地域包括支援センター(6箇所)に配置
- 生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーター)との連携を図る

### 【2】

- 市役所福祉課内に「総合相談窓口」を開設  
(地域包括支援センター、民生委員・児童委員は、すでに住民に身近な場所で包括的に相談を受け止めている)

# ■参考：生活支援コーディネーターと地域共創サポーターの関係（大牟田市における整理）

## 生活支援コーディネーター

## 地域共創サポーター

制度趣旨、実態を鑑み、いずれも【地域づくり】を中核とすると整理し直し、その機能的重点の違いと再整理する方が、政策的な効果が高まると思われる

### 介護予防・社会参加

- ・介護予防（ポピュレーションアプローチ）
- ・地域資源の探索・開発
- ・地域支援事業内の他の事業との連動

### 高齢中心

誰もが活躍し、包摂ある地域共生社会に向けた  
**地域づくり（共通）**

### 全（多）世代

### 社会的包摂

- ・我が事化（住民自ら地域の現状を把握し育てていく意識の醸成）
- ・地域による地域課題の解決の支援（伴走）

大きな目的や基盤は重なっているが、業務の力点が異なり、他部署との連携という意味でも領域が広い。

# ■多機関の協働による包括的支援体制構築事業(大牟田市)

## (2) 多機関の協働による包括的支援体制構築事業(補助率3/4)

○ 複合化・複雑化した課題に的確に対応するために、各制度ごとの相談支援機関を総合的にコーディネートするため、相談支援包括化推進員を配置し、チームとして包括的・総合的な相談体制を構築する。



### 【3】

- 市役所福祉課内に「よろず相談員(相談支援包括化推進員)」を配置
- 複合化・複雑化した課題に対応するために、事例に関係する相談支援機関等をコーディネート(主たる相談支援機関が決まるまでは主担当として支援も実施)
- 市レベルでの新たな社会資源を開発を担う

# ■現状と課題・方向性

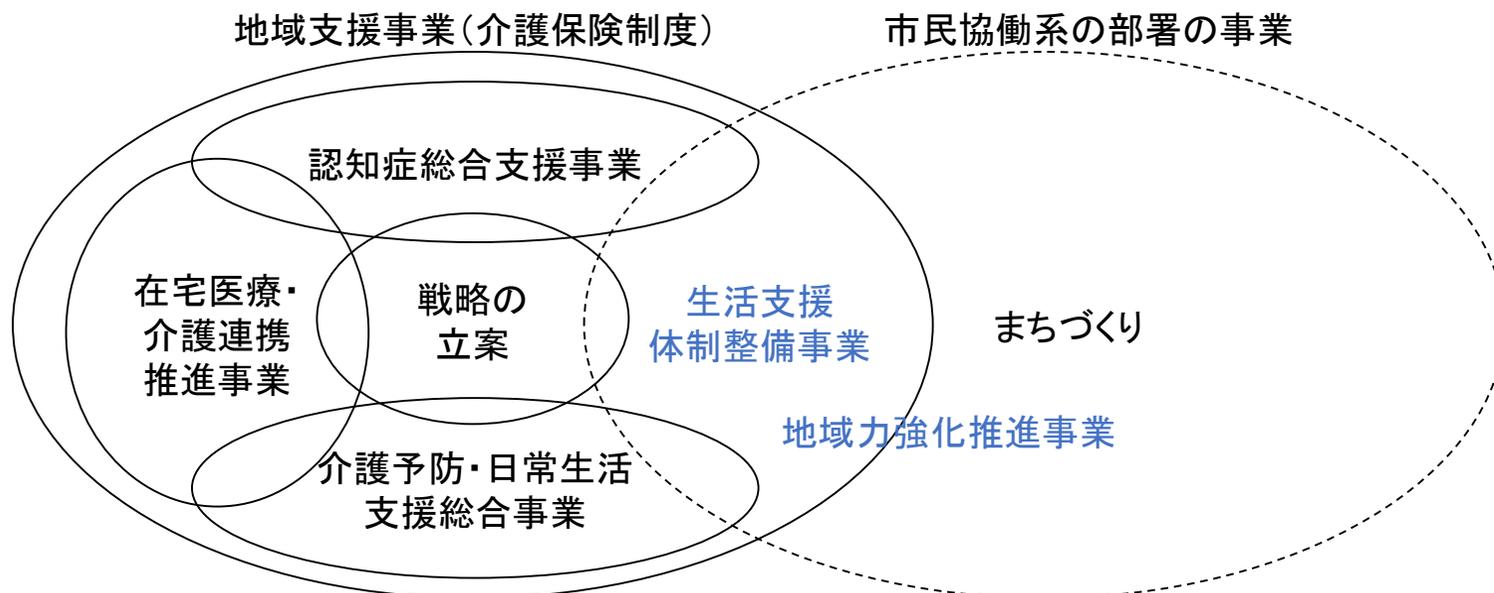
## 地域力強化推進事業

### <現状>

- 地域性や地域課題の多様さと担当者の強みに応じて、活動が豊かに広がっている
- 保健福祉部以外の部署の政策形成や実態調査に対して価値を提供する兆しがある（「住まい」や「移動(地域公共交通)」の問題など）

### <課題・方向性>

- (1) 市民協働系の部署との連携・協働の推進
- (2) 地域支援事業(介護保険制度)内の政策テーマとの(間の)連動
- (3) 保健福祉部以外の部署との協働の推進  
(地域と市役所のつなぎ目に。具体的には、「住まい」や「移動」など)



### 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

#### <現状>

- 複合化・複雑化した事例のうち、依存症やひきこもり、刑余者等の解決が困難な事例の対応が集中(すべての課題が解決することではなく、世帯に寄り添う期間が長期化)
- 市内外の企業や医療・福祉関係者等が集まり、地域の生活課題について話し合う場から、新たな取組みの芽が生まれている

令和元年度実績	相談件数： 75
	支援人数： 81人 (1.1人/件)
	支援機関数 (支援前)： 89
	支援機関数 (支援後)： 201

#### <課題・方向性>

- (1) 依存症の支援のあり方を考える会を立ち上げ、まずは専門職に向けた周知等のあり方を検討
- (2) 就労支援・多様な社会参加のあり方の検討、関係機関のネットワーク化 (多様な就労のあり方、ひきこもり者の社会参加支援など)

## 各事業の特長的な取組内容

---

# ■本人のやりたいことや会いたい人と一緒に過ごす時間を応援する

## 生活支援体制整備事業

高齢中心

全(多)世代

### ●事例① 戦争の思い出を語る会の発足

認知症カフェに参加していた男性高齢者から戦争体験をした人が集まり、語り合う機会を作ってもらいたいと生活支援コーディネーターに相談がある。民生委員やまち協等、生活支援コーディネーターが持つネットワークの中から同じような思いの方を見つけ、発案者の家で語る会が開催される。参加者同士2時間程度、自身の体験や思い出話に花が咲かせていた。また、意気投合し、毎月開催することとなる。

- ・参加者の年齢: 85～90歳
- ・人数: 3人
- ・介護認定: 申請なし

※申請すれば要支援～要介護の認定が出るような軽度の認知症の方も参加



### ●事例② 就業機会の模索と本人のナラティブ(卓球)に寄り添った支援

要介護1の認定で介護保険サービス利用を拒否している80代の男性。毎日パチンコへ行き、そこで良いコミュニティが作れているため、つながりの継続のためにもお小遣い稼ぎできる場所を探しつつ体づくりのために、昔やっておられた卓球を行うこととなる。デイサービスの利用は消極的だが、卓球の時間は笑顔。

# ■本人のやりたいことや会いたい人と一緒に過ごす時間を応援する

## 地域力強化推進事業

高齢中心

全(多)世代

### ●事例③ 畑を場とした全(多世代)での社会参加・居場所づくり

要介護1の一人暮らしの男性。デイサービスを利用しているが、利用時間以外の時間に家から居なくなることがあり心配だと、民生委員・児童委員より共創サポーターに相談がある。本人と行動を共にしていると、所有している畑に行っていたことが分かった。

「畑をしたいけど、一人では不安」と話されたため、民生委員・児童委員、デイサービスの職員等も交えて話し合いを行い、皆で支えていこうということで畑を再開する。



## 地域力強化推進事業

高齢中心

全(多)世代

### ●事例④ 農家の人手不足問題と意欲を重視したリハビリを組み合わせる取り組み

農業の人材不足の問題について相談あり。デイサービスの利用者と野菜の苗植えを行う。また、休耕地の活用を農家と一緒に検討し、休耕地に野菜等の種を植え、水やりや収穫をデイサービスや地域の高齢者と一緒に行っていくことで農家の人材不足、デイサービスの利用者への効果的なリハビリ機会の創出を目指している。



## 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

### ●事例⑤ 企業の人手不足問題と地域とのつながりづくりを組み合わせる取り組み

宅配におけるラストワンマイルの配達を、小規模多機能型居宅介護施設の利用者が実施。可能な限り手渡しで配達することで、利用者と地域住民とのつながりづくりになり、安心して外出できる環境をつくっている。市内の介護事業所に少しずつ広がっている(3箇所)。



## 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

### ●事例⑥ 企業の人手不足問題と地域とのつながりづくりを組み合わせる取組み

人手不足に悩む自動車販売店の展示車を要介護認定を持つ介護デイサービスの利用者が洗車。  
利用者は、仕事というやりがいと社会とのつながりを得ることで自立支援につながる。



# 新たな社会支援の創出に

## 要介護高齢者 生き生きと

大牟田市内のデイサービス利用者が、市内の企業や事業所で生き生きと働く姿が見られている。仕事に汗を流しているのは要介護の高齢者たち。働くことで対価を手にする。現役の時のようにいらないが自分たちもまだまだ社会でつながり役立っている。毎日「どうも」の挨拶が自信につながり、日々の生活にも張りが出ていっている。高齢者について、働くことで新たな生きがいになっている。

この取り組みは、同市 掛けてマツチンクを図る健康福祉推進健康長寿支援課が中心となって地域共生を旨とし、新たな社会支援の創出を目的に行われている。これまで事業所と福祉施設に呼び



洗濯作業に取り組む施設利用者たち

ピアス機で小規模多機能型居宅介護事業所リビングアール小浜、石橋フアームで小規模多機能ホームいまの家の家といつな各施設を利用する高齢者たちが、仕事に取り組んでいる。

仕事内容は、要介護の高齢者が安全に取り組むことができる比較的軽度

### 事業所が軽作業提供

市担当課呼び掛けで

### デイ利用者ら1時間程度

なもの。事業所側は労働力の確保と社会貢献、高齢者側は社会とのつながりと生きがい創出というメリットがそれぞれある。何より、わずかなが

ら、誰に気兼ねすることなく使える、とこもあれば「と」と。

▽ △ ホンタカース大牟田北に驚いています。働くことを通じて表情も明るく

大牟田

なり、日常生活の活動性も上がっています」と驚きを隠さない。

高齢者たちは、働くことで「まだ自分たちはやれることがある」と自信を持つようになり、できなくなっていたことにチャレンジする姿勢も見え

現在、同店で働いているのは要介護1、2などの高齢者。2月末から練習を行い、正式に3月から働き始めた。最初は1時間かけて1台を仕上げるとも難しかったが、今は2台の洗車を完了することもあるという。

同施設を運営する森健一朗さんは「最初は戸惑いもありました。本当に

市健康福祉推進室長の池田武俊さんは「社会性が低下すると、生活機能も衰える。今回のように働くことで社会とつながり、自信を取り戻し、生活能力を回復させるのは自立支援にもつながる。高齢者だけでなく、社会的に孤立している人は多い。この取り組みがさまざまな分野で自立支援のきっかけになれば、大きな期待を寄せている。」

(小柳 聡)

## ○企業側の課題解決

なもの。事業所側は労働力の確保と社会貢献、高齢者側は社会とのつながりと生きがい創出というメリットがそれぞれある。何より、わずかなが

## ○介護サービス事業所のケアの変化

同施設を運営する森健一朗さんは「最初は戸惑いもありました。本当に大丈夫かと。しかし、働きに行くことで利用者の気持ちの改善や身体能力回復にもつながって本当に驚いています。働くことを通じて表情も明るくなり、日常生活の活動性も上がっています」と驚きを隠さない。

高齢者たちは、働くことで「まだ自分たちはやれることがある」と自信を持つようになり、できなくなっていたことにチャレンジする姿勢も見え

## ○高齢者のADL向上

現在、同店で働いているのは要介護1、2などの高齢者。2月末から練習を行い、正式に3月から働き始めた。最初は1時間かけて1台を仕上げるとも難しかったが、今は2台の洗車を完了することもあるという。

## ○行動の目的化 達成感

働く高齢者からは「少しだけ、孫にお小遣いを渡しました」「妻が好きなパンを買ってあげました」などの声がかかっている。そして「自分で働いて手にしたお金だから、誰に気兼ねすることなく使えて、とてもうれ

## ■ 本人のやりたいことや会いたい人と一緒に過ごす時間を応援する

## 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

## ● 事例⑦ 当事者をつくるやさしいまちづくりの取組み

認知症の診断を受けた直後の当事者や家族から、「当事者と会いたい」という声を聞き、当事者同士が語り合える「場」として、ファミリーレストランで定期的に集まっている。

さらに、「情報はほしいがインターネットが使えない。本屋には本が少ない」「図書館では(ほしい本を)見つけることができなかった」という声をもとに、関係機関が集まり意見交換を実施。図書館で本を探しても認知症に関する本は、医学や福祉・介護のコーナーなど点在していたため、令和元年5月末には**認知症の本**を並べたコーナーを設置。図書館以外にも、対象を動物園やスーパーマーケットにも広げて意見交換を実施している。

